

監査結果報告書

2025 年 6 月 3 日

社会福祉法人保健福祉の会 殿

監 事 北田喜美代 ⑩

監 事 佐藤 晃敏 ⑩

私たち監事は、社会福祉法第 40 条および関連法に基づき 2024 年度（2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日）の監査を以下のとおり実施しましたので報告します。

監査日時 2025 年 5 月 27 日（火）9 時 30 分～16 時 00 分

監査場所 都和のはな3階会議室

立 会 人 川原法人常務理事、小野老健西の京事務長、猪熊特養都和のはな施設長・グループホーム都和のはな管理者、和久田ケアステーション虹の家管理者、京藤青い空保育園園長、谷川あらぐさ保育園園長、福田洛西保育園園長、竹山白い鳩保育園園長、竹内児童支援事業部長、田村法人事務員、松山西の京事務員

監査結果

1. 社会福祉法人保健福祉の会の 2024 年度の財産目録及び損益計算関係書類の点検照合を行いました。違算なく合致しており適正に処理されていることを認めます。

2. 法人および各事業所

（1）法人の結果

2024 年度は、介護報酬・障害福祉サービス等報酬改定、保育園の利用状況の見込みによる利用定員の調整などへ対応してきました。また、パーチェ・第二パーチェの事業統合とパーチェ吉祥院開設準備等の事業拡大を図ってきました。新型コロナウイルスも、引き続き経営に大きな影響を及ぼすなかで、利用者、職員の安全と生活を守るため奮闘している役職員の皆様に敬意を表します。

2024 年度の法人合算では、当期活動増減差額 2,212 万円の黒字となっています。予算より、148 万円の増益となっていますが、保育事業での公定価格の改定分の補助金増によるものです。事業毎では、介護事業で▲2,580 万円の赤字、児童支援事業 1,619 万円の黒字となり、保育事業 2,017 万円の黒字でした。保育事業の黒字は、前述した補助金増によるもので、一過性のもので次年度以降も厳しい経営状況にあります。

事業活動のサービス活動収益は 15 億 3,900 万円となり、前年より▲3,096 万円（前年比 98%）の減収で、予算に対しては▲667 万円（予算比 99.6%）の未達成となっています。事業毎には、介護事業▲2,459 万円（前年比 97%）の減収、児童支援事業▲1,047 万円（前年比 93%）の減収です。保育事業は 409 万円（前年比 100.7%）の増収となっていますが、4,000 万円程度の補助金増を含んでいることを留意しておく必要があります。

資金収支差額合計では、事業活動資金収支差額は 9,987 万円で前年より 1,542 万円増加しました。パーチェ吉祥院建築 7,459 万円や保育事業積立金支出 2,300 万円を行い、資金収支差額▲2,909 万円の赤字となっています。取得手続き、資金も事業活動資金収支差額や設備資金積立の取り崩しで対応しており適切です。パーチェ吉祥院の建設にあたっては、各児童支援事業所の繰越金を充当し建設計画を支えたことは評価できます。

財政面では、総資産は、28 億 1,826 万円で前年度より▲2,107 万円の減少となっています。固定資産は、取得資産、積立金等の増加、減価償却の差引でも 3,541 万円の増加となり、負債は、5 億 3,286 万円で前期より▲2,889 万円の減少となっています。

法人運営では、理事会の出席率は 100%ですが、評議員会は 72.2%で前年よりも後退しており参加率向上

にむけた努力が求められます。定期に介護事業部会・保育事業部会・児童支援部会が開催され、効率的な運営が行われています。また、保育部と児童支援部の交流も深まっています。

（２）各事業所・施設の結果

2024年度も、介護事業・保育事業・児童支援事業の安定的な運営、利用者の立場に立つ質の高いサービスの提供や幹部職員の配置と育成・職員の育成と労働条件の整備をきかげとりくんできました。以下は、各事業分野での取り組みの結果です。

① 介護事業

特養都和のはなでは、ショートステイを積極的に活用しました。グループホーム都和のはなは、稼働目標を達成し、調理を冷凍食品に変更して経費の削減を図りました。老健西の京は、2022年に超強化型の基準を取得し維持しています。しかし、2024年度は、4回にわたる入所者のコロナ感染クラスター発生により入所稼働率が大きく低下しました。感染症対応の強化は、ひきつづく課題です。ケアステーション虹の家は、常勤2名の体制となりましたが、非常勤職員の確保には苦戦しています。2024年での報酬改定では、大きな影響を受け減収となっています。あわせて、職員体制の不足により受入れができない状況もあります。今後の展開を考慮し寄付金の使途については検討されたい。

決算の特徴は、サービス活動収益で、特養都和のはなは、前年比99.4%の減収、老健西の京は96.3%の減収、GH都和のはなは102.1%の増収、虹の家は91.4%の減収で、合計で97%、▲2,459万円の減収となっています。当期活動増減差額は、特養都和のはなは69万円の黒字、老健西の京は▲2,349万円の赤字、GH都和のはなは▲27万円の赤字、虹の家は▲271万円の赤字となり、合計で▲2,580万円の赤字となっています。

② 保育事業

各園で、厳しい体制のなかで、行事や保育に進め方を模索しながら園児一人ひとりを大切に組みんできました。白い鳩保育園・洛西保育園では、利用定員を120名から100人に変更しましたが、定数割れしており、0歳児の確保は大きく減少しています。今後も定数の検討を行っていく予定です。そういう状況をふまえて2025年度に計画している洛西保育園の老朽化に伴う改修計画の適正な投資額の策定や白い鳩保育園の遊休スペースの活用も検討されたい。

決算の特徴は、サービス活動収益で、白い鳩保育園、前年比100.5%の増収、洛西保育園100.2%の増収、あらぐさ保育園100.1%の増収、青い空保育園101.9%の増収となり、保育事業合計では、100.7% 408万円の増収となっていますが、一時的な補助金4,000万円の増額を勘案すると実質的には減収となっています。当期活動支差額は、白い鳩保育園47万円の黒字、洛西保育園▲373万円の赤字、あらぐさ保育園363万円の黒字、青い空保育園1,979万円の黒字、合計で2,017万円の黒字となっています。

③ 児童支援事業

2024年度の大きな事業であったパーチェ吉祥院の開設準備は厳しいタイムスケジュールの中で関係者の協力で無事年度内に、事業所指定を受けることができました。2024年度の入所希望や予定者は、再編や新規事業所の開設の関係で制限していました。障害福祉サービス等報酬改定に際して、新たな加算算定にも対応しています。パーチェ開設20年で企画した記念誌を刊行し、好評で増刷する運びとなっています。新規開設したパーチェ吉祥院の順調な利用者確保に期待しています。

利用者状況は、パーチェ年間2,581名（1日当たり8.9名 前年度比91.8%）、第二パーチェ年間2,667名（1日当たり9.2名 前年度比94.8%）、パーチェ梅小路年間2,851名（1日当たり9.8名 前年度比99%）相談支援パーチェ計画相談197件、モニタリング199件（前年度比85%）となっています。

サービス活動収益では、パーチェは前年比90%、第二パーチェは前年比94.6%、パーチェ梅小路94.4%、相談支援パーチェ92.5%、合計で前年比93%、1,046万円の減収となっています。

当期活動増減差額は、パーチェ2,744万円の黒字、第二パーチェ▲6,787万円の赤字、パーチェ梅小路▲1,381万円の赤字、相談支援事業パーチェ▲972万円の赤字となっています。事業統合やパーチェ吉祥院の開設にむけた拠点区分間資金繰り入れの影響がありますが、合計では1,619万円の黒字となっています。

以上